※令和4年度以降入学生用

学校番号	1003

令和　5　年度　　演劇　　科

教科	演劇	科目	伝統芸能	単位数	2　単位	年次	2　年次
使用教科書							
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業には、舞台に立つものとしての自覚を持って参加してください。
・本気になって取り組むことが大事、その自覚を持って授業に臨んでください。
・演劇はいかなる場合も即興的でなければならない。そのことを自覚しましょう。
・学んだこと、授業を受けて気づいたことなどは、その日のうちにメモしておくように心がけましょう。
・積極的に、なおかつ楽しく取り組むことが一番です。それが、あなたの能力を伸ばしてくれます。

2　学習の到達目標

1. 狂言の発声法を学ぶことを通じて、きちんと相手に届く発声方法を身につける。
2. 狂言の基本動作や重心の使い方を学ぶことによって、日本の伝統的な所作や身体の使い方を身につける。
3. 狂言を演じることによって、人間を知り、自分の在り方を考える。
4. 古典に対する審美眼を育て、自由闊達な表現へと結びつける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	演劇的な表現をするために必要な技能を身につけ、その技能を、創意工夫した表現へと結びつけているか。	演劇の本質的な面白さを感受し、自らの発想を演劇的に表現するための構想を練ることができるか。	演劇文化を愛好し、身体による表現に関心を持ち、意欲的、主体的に身体表現を行って、その喜びを味わおうとしているか。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和4年度以降入学生用

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価基準	評価方法		
				知 (a)	思 (b)	主 (c)
1	心身の準備	・「雪山」を繰り返し謡い、呼吸・発声・間・雨垂れ拍子・ゴマ節などを理解し、体得させる。 ・心肺機能・体力強化。 ・能「藤戸」を題材に、時代による価値観の違いを知る。 ・音の重要性。「母音」と「子音」。	a:基礎的な技能をきちんと身につけ、それを表現に生かしているか。 b:演劇ならではの面白さを意識しながら、表現活動に取り組んでいるか。他者の表現を的確に評価できているか。 c:授業に積極的に取り組んでいるか。	実技テスト	実技テスト リフレクションシート	授業に取り組む姿勢
	型と感情 小舞	・構え・運足・型の体得。 ・能舞台の意味。 ・地謡の重要性。 ・感情の解放と抑制を考える。 ・西欧と比較して人間の土台を考える。	a:基礎的な技能をきちんと身につけ、それを表現に生かしているか。 b:演劇ならではの面白さを意識しながら、表現活動に取り組んでいるか。他者の表現を的確に評価できているか。 c:授業に積極的に取り組んでいるか。	実技テスト	実技テスト リフレクションシート	授業に取り組む姿勢
2	型移し	・各演目ごとに口移しによるセリフ稽古。 ・「二字上がり三段起こし」の体得。 ・明朗快闊な言葉の体得。・各演目ごとに型移し、立ち稽古。 ・「手巾」「陰翳礼讃」を題材に日本人の感性を知る。	a:基礎的な技能をきちんと身につけ、それを表現に生かしているか。 b:演劇ならではの面白さを意識しながら、表現活動に取り組んでいるか。他者の表現を的確に評価できているか。 c:授業に積極的に取り組んでいるか。	実技テスト	リフレクションシート	授業に取り組む姿勢
	演目別稽古	・発表会に向けての稽古。明瞭な声と正確な演技の体得。 ・日本語に込められた想いを知る。 ・若さへの警告、訪れる老いを考える。	a:基礎的な技能をきちんと身につけ、それを表現に生かしているか。 b:演劇ならではの面白さを意識しながら、表現活動に取り組んでいるか。他者の表現を的確に評価できているか。 c:授業に積極的に取り組んでいるか。	提出作品	提出作品 リフレクションシート	授業に取り組む姿勢
3	演目別稽古 発表会	・発表会に向けての稽古。制限された演技から自由闊達な演技を目指す。 ・日本語の美しさ、力強さの体得。 ・役者は生き方であり、生き様であることを考える。 ・これまでの取り組みと、今後を考える。	a:基礎的な技能をきちんと身につけ、それを表現に生かしているか。 b:演劇ならではの面白さを意識しながら、表現活動に取り組んでいるか。他者の表現を的確に評価できているか。 c:授業に積極的に取り組んでいるか。	実技テスト	実技テスト リフレクションシート	授業に取り組む姿勢

※　表中の観点について　　a：知識・技能　　b：思考・判断・表現　　c：主体的に学習に取り組む態度